

半井桃水 （漢名） 小説家。萬延元年十一月一日對馬國生れ、大正十五年

年十一月二十一日歿（六六—九三）。本名別、通稱景太郎。別號千壺、

桃水生、桃水痴史、桃水野史、桃水瀟。父は對馬藩醫。尺振八の共立

學舎に學ぶ。明治二十一年「東京朝日新聞」入社。後年は俗曲の作詞

家として聞え、また樋口一葉の師として名を遺す。

著書「一樹の蔭」（桃水痴史名、明治二十四年二月十一日今古堂）、

「花あやめ」（同、明治二十五年八月—二十七日今古堂）、「胡沙政く

風」全二冊（同、前篇・明治二十五年十一月—二十四日出版—二十六年

一月一日發賣、後篇・一月二十一日金櫻堂）、「花の涙」（同、明治

二十六年一月十八日今古堂）、探偵小説「雪達摩」（同、明治二十六年五

月二十五日金櫻堂）、「鶯笛」（同、明治二十四年七月十四日金櫻

堂）、「狂心咲」（内題「狂咲」明治二十六年九月十七日春陽堂）、

「忠直卿」（大正四年十月—二十日榮文館書房）、「白蓮」（大正五年

七月十日新潮社）、「薄教大師」（編、大正十年二月一日滋賀・比叡大師

山延齋寺傳教千百年御遠見事務局）、「伏魔殿・前編」（東籬庵名、大正十一年九

月二十五日ライオン社）、「義民加助（貞享騒動）」（昭和二十八年十

一月—二十八日長野・白鳥社）等。